

## 令和元年度 近畿税理士会会長賞

税に背中を向けないで

桜井市立桜井西中学校 二年 橋本 彩桜

私たちの納める税金が国境を越えて活躍していることは知っていますか。

国の収入源は税金なのです。しかし、日本は多くの国債という重荷を背負ってます。

こんな状況の中、日本は発展途上国への支援を行っています。消費税から生まれる経済協力費を使い貧しい人や病気の人などの助けを必要するたくさんの人を救うというものです。

「まず自国の充実が先ではないか。」

そんな声も少なくないかもしれません。しかし私は国内だけでなく世界中のどこまでも救う日本を含めた先進国の税制度を誇りに思います。そして私たちが納める税金、消費税が人を救うとは。消費税は、お金がもったいない、とってた自分が恥しいです。

同時に自分も尊い命を救う協力ができると思うと血が騒いできます。

消費税は自分自身が助けを求める人々へ差し伸べられる命綱であることを日本中の人が知れば積極的に税を納めてくれる人が多く増えると思います。また、そんな人たちの購買意欲が高まることによってその分十分なお金を稼ぐために、より精一杯働きます。

それによって経済がよく回り景気が良くなります。この流れにしたがって国の充実へと発展していけるでしょう。

この上昇気流に乗るためには、やはり税に対して日本中の人々が関心を持ってもらうことが大切だと思います。それを実現させる取り組みがあります。それは、「税を考える週間」というものです。今、税金の話題に背中を向けている人が多いと思います。

そんな人たちを振り向かせる「税を考える週間」とは毎年11月11日から11月17日までの一週間、税金を納める意味や、税金の使い道などの理解を深めていくことです。この期間はメディアで税についてたくさん取り上げられるので国民が税に関心を持つ可能性が高いです。まさに、税のゴールデンタイムです。そんな「税を考える週間」が日本中に広まる事によって多くの人々に、「税を考える週間」をつけてもらえると思います。

ちりも積もれば、山となる。この言葉のように税金も集まれば、世界中の人を救う大きな光となります。その一つの星となれるようにこれからも税と向き合いたいです。